

# かとう通信 第30号



発行日：令和元年11月1日 発行人：かとうファミリークリニック

## 入学前の予防接種、お済みですか？

今年もあと2か月。あっという間ですね。

来春、小中学校に入学されるお子さんもおみえになると思いますが、準備はお済みでしょうか？…といっても、ランドセルや制服の話ではなく、前回に引き続き予防接種のお話です。

### ●入学前に済ませておくワクチン(定期接種)

小学校入学前：MR(はしか・風疹)

他の定期予防接種と異なり、年齢ではなく「年長さんのうちに」済ませておく、という点がポイントです。

中学校入学前：二種混合(DT：ジフテリア・破傷風) 11歳から12歳のうちに接種します。

### ●学童期・成人の百日咳の報告が増えています

百日咳は百日咳菌の感染により引き起こされ、その名の通り長引く激しい咳が特徴です。特に1歳未満の赤ちゃんでは激しい咳発作によって呼吸困難や酸素不足を引き起こし、命に関わる危険性もあります。

<https://www.youtube.com/watch?v=S3oZrMGDMmw>

↑赤ちゃんの百日咳：アメリカの有名な総合病院であるメイヨークリニックの動画です。息が吸えないくらい咳が続きます。

わが国では2018年より全数報告の対象になり、年間症例数が1万例以上と予想以上に発生しており、そのうち6割以上が小中学生の子供たちの感染であることが明らかになりました。

百日咳特有の問題として、咳が長引いてちよつと風邪とは違うな、と百日咳を疑う頃には周囲に感染が広がる時期を過ぎてしまっているという、早期診断が難しい面もあります。

### ●四種混合ワクチンの効果は4-5年

百日咳の予防接種は、乳幼児期に四種混合(DPT-IPV)ワクチンを4回接種しますが、4～12年で抗体が低下してくるといわれています。このため学童期以降には免疫が低下し、流行を引き起こしているものと推測されています。

### ●入学前に三種混合(DPT)ワクチンを

百日咳菌にかからないこと、特に学童期の感染予防対策が必要で、年下のご兄弟姉妹・赤ちゃんのいるご家庭ではより重要になります。

前号でお伝えした集団免疫の考え方で、学校での集団生活の始まる前に多くの子供さんが免疫力を持っておくことで流行が防がれ、より小さなお子さんを護ることができます。

2018年から、いったん製造中止となっていた三種混合(DPT)ワクチンの製造・販売が再開され、幼児期以降に百日咳の追加の予防接種が可能になりました。

日本小児科学会では、小学校入学前のDPTワクチンの接種と、11歳時のDTワクチンの定期接種の代わりに百日咳を加えたDPTワクチンの接種を推奨しています。

しかし、どちらも任意接種となるため、負担が増えてしまいます。特にDTは無料で接種できますが、DPTに替えると公費負担の対象外となってしまいますので、負担感は増してしまいます。

当院では百日咳予防の重要性を踏まえ、DPTワクチンを通常の予防接種よりもご負担の少ない「新入学応援価格」に設定いたしました。入学前の準備としてぜひ接種をご検討ください。MRなど、ほかのワクチンとの同時接種も可能です。お気軽にご相談ください。

※ 国内生産・正規流通のワクチンですので、万一副作用が生じた場合には、医薬品副作用被害救済制度の対象となります。

**入学前に百日咳予防  
三種混合(DPT)ワクチンを  
3,000円(税込)にて実施します**